

平成 29 年度
活動レポート

：土地利用型農業の活性化への取組

①商品性向上対策（雑草イネ防除）

■背景とねらい

雑草イネは、栽培品種の水稻と草姿は似ているが、茶褐色の脱粒性の極めて高い種子を着ける。発生が多くなると栽培品種と競合し、減収を引き起こす。また収穫物の米に混じることで、異物混入として扱われ問題となっている。

■本年度の取組と成果

ア 千曲市・坂城町での立札巡回

JA、市町及びNOSAIと連携し、発生面積の把握と生産者への啓発を目的とした巡回が、ここ数年行われている。本年度も雑草イネ出穂直後から脱粒直前まで巡回を行った。発生面積は横ばいであったが、今まで発生がなかった地区にスポット的な発生も確認された。

イ 須坂市における除草剤展示圃

平成 28 年に初発が確認された須坂市では、防除体系の確立のため、除草剤による防除対策展示ほを設置した。3 剤体系処理による除草剤効果の確認を、生産者と JA、市と共同で行い、加えて抜き取りを行った。昨年と比較すると、密度はかなり下がったが、完全に撲滅までは至っていない。今後も継続的な活動を行う。

■今後の課題と対応

現状発生している地域では、徐々に甚発生ほ場は減っているものの密度の低下にとどまり、面積としては横ばいがほとんどである。今後、新たに発生するほ場をなくしていくために、発生ほ場における適切な防除対策の他、伝播経路を断つ対策を講じる必要がある。



雑草イネ発生ほ場（長野市）

②特徴ある産地づくり支援

■背景とねらい

長野地域は、平坦な善光寺平と周辺の山間部地域に区分され、気温、気象ともに地域差が大きい地域となっている。特に中山間地域においては、水田農業を維持するため、地域ごとに特徴ある産地づくりを進めており、その活動を支援した。

■本年度の取組と成果、今後の対応

ア 特栽培米栽培者への技術指導（信濃町）

信濃町では地元産の堆肥を利用する等、長野県の環境にやさしい農産物認証を取得し、21 名で特別栽培米部を組織し、約 20ha の特別栽培米を生産している。本年は、育苗講習会、ほ場巡回及び指導会等を行い高品質・安定生産に向けて支援を行った。

平成 29 年度は、春先の低温傾向もあり、コシヒカリについてやや低収となったが、あきたこまちについては昨年度よりも多収となった。

今後は、特にあきたこまちについて需要があるものの、部会規則の“たい肥の施用”が面積拡大のネックとなっているため、肥料試験等を行い導入しやすい体系の確立に向け JA と協力し支援を行う。



特別栽培米ほ場（信濃町）

イ 酒米部会への技術指導（長野市鬼無里）

鬼無里では、15 年前より酒米のひとつこちを酒造会社と契約栽培して地酒を製造している。育苗、追肥指導会等を行い、品質の高い酒米の生産に向けての指導を行った。本年は、登熟期が低温傾向で青未熟が多い結果となったが、収量は確保された。

今後は、地酒製造だけでなく、観光業と連携したお田植会や酒を楽しむ会等のグリーンツーリズムも視野に入れた活動も提案していきたい。

(技術係)